

就職援護フェアを開催 「民間企業の仕事を知る機会に」



再就職したOBの講話を真剣に聞く受講者



企業ブースには多くの隊員がつめかけた

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 1等海佐 山野太資）は、2月26、27日の両日、久里浜駐屯地において「平成29年度就職援護フェア」を開催した。

参加したのは、県内外の陸海空自衛官約220名。自衛隊退職後、神奈川県内で再就職を希望する隊員、中隊長などが対象で、再就職に必要な知識を付与するとともに、中隊長などの就職指導への理解促進や退職予定自衛官の意識改革も図った。

初日、参加隊員は再就職した自衛隊OBの体験談を真剣に聞くとともに、援護業務の失敗例などを学んだほか、スーツの着こなしやビジネスマナーについての講座も受講した。

翌日、県内の援護協力企業やOBの就職先企業など41社がブース形式で業種説明会を開催。企業やOBの話を直接聞くことができる貴重な機会とあって、各ブースでは多くの退職予定自衛官が熱心に耳を傾けていた。

神奈川地方協力本部は「今後も部隊や企業との密接な協力関係を保ち、就職の援助に対する理解促進と意識改革を図っていく」としている。

防衛大学校入校に向けて「情報交換会」を実施

神奈川地方協力本部厚木募集案内所（所長 岡山1海尉）は、2月27日（火）、不安の払拭と仲間づくりを目的に当案内所から志願した防衛大学校への入校予定者6名を集め「情報交換会」を実施した。

防大出身で所長の岡山1海尉は、自己紹介の後、防大での生活環境や教育訓練についてユーモアを交えて説明し、当初緊張した面持ちであった入校予定者にも笑顔がみられた。

その後の懇談では、入校予定者が一番の不安という教育訓練、そして人間関係について所長の経験談などを交えて互いに話し、また入校に向け勉強している事や準備していることなどを入校予定者がお互いに話していた。

入校予定者は「不安が払拭できてよかった」「仲間が作れてよかった」「4月1日の着校が楽しみになりました」などと話し、入校へ向けてより前向きになった様子だった。

厚木募集案内所は「このような機会を積極的に設け、入隊入校予定者の不安を払拭するとともに仲間意識を醸成し、入隊入校へ導いていきたい」としている。



説明する厚木募集案内所長 岡山1海尉（右から4番目）